

婦人と子ども

第十三卷 第九號

胎 教

東京女子高等師範學校教授

下 田 次 郎

教育といへば、生れてから後に行ふ事としてある。家庭教育並に學校教育の善し惡しによつて立派な人が出來たり、或は出來そこなつたりする事は勿論である。然し、如何に教育が善くても、教育せられる人の素質がわるくては立派なものにする事は出來ない。即ち立派に生みつけるといふ事は、教育に先立つて大切な事となつて來る。

立派な素質の子供を生むには、父母の心身の素質が善いといふ事が大切な條件である。もし父母に身體又は精神に惡い遺傳をもつて居るものがありとすれば、子供にそれが傳はるから、やはり生れながらにして子供はわるいわけである。即ち

結婚するに當つて、夫たり妻たるもの、選擇に注意せねばならぬ。今日人種改良問題と云ふものが喧しくなつて來て居るのも、やはり善い子孫を生みつけんが爲めである。配偶者の選擇をつゝしんで、素質の善い者同志結婚したとして、次に起る問題は、即ち妊娠してから、その胎兒をよく育てるといふ事である。これには妊婦の身體の衛生に注意しなくてはならぬ。それで妊婦の養生といふのは、随分世間でも大切なものと見られ、それについて書かれたものも少くないが、その精神の養生といふ事は、割合に世間でこれに注意して居らぬやうである。處が、實際の場合について見ると、妊

婦の精神状態は、胎兒の發生に大なる影響を及ぼすものである。

胎兒の始めは、一つの成熟した卵である。それが生れる時には、凡そ八百目位になるのである。僅二百八十日の間に、凡そ五百四十萬倍程の重さとなる。(中には九億餘萬倍とする學者もある)生れて成人となるまでに、體重はよくて二十倍位しか増さない。而してその間二十年かゝるのである。以て如何に胎内の發育の速なるかを想像すべきである。身長についても、成熟した卵は、凡そ〇、二ミリメートルであるが、生れた時には、四百九十ミリメートルとなる。即ち身長は、二百八十日の間に、凡そ二千四百五十倍になるわけである。處が、成長した時の身長は、生れた時の凡そ三倍半に過ぎない。そしてその間に凡そ二十年を要して居る。此の方から見ても、胎内の發育が如何に速であるかといふ事がわかる。かゝる數量上の大變化は、また身體發達上の大變化を示すものであ

る。従つて、外から胎兒に及ぼす影響は、些細な事でも、なか／＼大なるものがあるのである。

身體が精神に影響を及ぼす事は、誰れも知つて居る事である。病氣をすれば氣分が面白くない、健康であれば氣分が面白い、目がわるければ物がよく見えない、耳がわるければ聞えないなど、皆それである。その反對に精神もまた身體に影響するものである。而して、その影響の最甚だしいものは感情である。喜怒哀樂の情は、呼吸、血行、營養、分泌などの生理作用に影響するものである。大體より云へば、苦痛は身體にわるく影響し、愉快は身體によく影響する。うれしい時は、食慾もすゝみ、血行もよくなる、消化も、營養もよくなつて、手にも足にも力が出で、舉動も活潑になるが、悲しい時にはまるでその反對であるやうなものである。而して感情が、身體の機關の中で最影響するものは、胃でも腸でも肺でも心臓でもない、婦人にあつては、胎兒を宿して居る機關である。此

事は乳房及び乳について見てもわかる。生殖機關と乳房とは、子供を内と外で養ふだけの違ひで、また非常に密接な關係をもつて居るものである。それ故外にあらはれて居る乳房及び乳が、如何に感情によつて影響せられて居るかを見れば、生殖機關が感情によつて影響せられる事も推量せらるゝのである。乳は、精神を安靜にして居ないと出るものでない。驚き悲しみによつて、分量が少くなつたり、或は出なくなつたり、または、その質を變じて、乳兒を病氣に當り、甚だしきに至つては、死に至らしむる事さへある。人間ばかりでない、牛でもさうである。乳牛をびつくりさせたりすると、やはり乳の分量や質に影響するものである。乳は外に出て居るまでであるが、身中にある生殖機關も同じく感情によつて、種々の影響を受けるものである。たとへば、臨産間近に吃驚した爲めに、流産をしたり、或は死産をしたりする事もある。

それで、胎兒を健康に發育せしめやうと思へば、妊婦の精神を常に安靜ならしめ、心配や、悲しみのないやうに、喜びと雖も、あまりはげしき感情を起させないやうにする事が必要である。それで妊婦本人もその心掛けて精神を安靜に持つやうに努め、周圍の者、殊に夫、舅、姑、小姑などもよく注意して、妊婦をいたはり、心配をしないやうにし、安心して、所謂大船に乗つたやうな心地であらしめなければならぬ。また妊娠中は、感情を激動させるやうなものを見せたり、聞かせたりしてはならぬ。芝居、寄居、活動寫眞などでも感情を激動させるやうなものを見てはいけない。その他珍奇な見せ物なども避けるやうにしなければならぬ。また讀む物でも、精神を高尚純潔ならしむるやうなものを適度に讀む事は望ましいが、性質のよくない劣情を發するやうな小説などは避くべきである。また、なるべく美しい天然に接しその感化を受ける事ものぞましい事である。そして、

周圍はなるべく平和にして、あまりやかましい雑踏するやうな場所へは出ない方がよいのである。

其他これに準じて、妊婦の精神生活は、平和に、高尚に、かつ純潔ならしむれば、その身體に及ぼす影響の善良なるのみならず、妊婦の身體を通じて、また胎兒の發育にもよい影響を及ぼすものである。

胎教については、自分は、從來その必要なる事

幼稚園の問題に關して日田權一君に答ふ (續き)

東京女子高等師範學校教授 榎山 榮次

を感じ、いつかは之をしらべて見やうと思つて居たが、多少その材料を得たから、此間、これをまとめて「胎教」といふ小さな本を書いて見た次第である。

どうか、世間でも、教育に注意する如く胎教に注意して、教育をすべき子供の資質をよくする事につとめるやうにしたいものである。

三、共同作業の意義に就きて

日田君は余の所謂共同作業に就きて疑念を起されそれを就て手強く質問せられてをる。又質問と同時に批評をも試みられてをる。余の共同作業と云ふのは廣い意味に於て使用致してをるのである。即ち四五人を一組として爲さしむる共同の仕

事でも四十人内外を一組とする共同の仕事でも又は全園を一團として爲さしむる共同の仕事でも凡て之を包含せしめたのである。家庭の眞似を爲さんとする保育法に賛成しないからと云うて四五人を一組とする共同作業を採らざるものであると推定なさるにも及ぶまいと思ふ。余の作業と稱して